

～「男らしく」「女らしく」より  
「自分らしく」生きられる社会をめざして～

# 男女共同参画についての 「川柳・写真」

## 入賞作品

「男女共同参画」をテーマに12月15日(火)から1月31日(日)まで、市内在住・在勤・在学の方を対象に川柳と写真を募集したところ、川柳は160点、写真は6点の応募がありました。大分市男女共同参画審議会委員による審査の結果、川柳4点、写真1点の入賞作品が決まりました。



「エプロンがまんざらでない家事メン」  
大分市 阿部 孝子さん

### 川柳の部

**最優秀賞** 家事分担 いつの日からか あうんの呼吸  
大分市 はるブーさん

**優秀賞** 子育てを しながら親が 育てられ  
大分市 中山 和充さん

**入選** もみじの手 パパからママへ 湯気の中  
大分市 児玉 純子さん

**入選** ヒーローに なりきるパパの 読み聞かせ  
大分市 安藤 文子さん

## 川柳 世相あれこれ

川柳は前句付の付句が独立した17字の短詩です。

江戸中期頃から、季語などの制約のない口語詩として流行。代表的な点者であった柄井川柳の名から来ています。人生の機微や世相、風俗などをこつけいに、また風刺的に描写するのが特徴です。

現代の川柳に対して、江戸時代の川柳を古川柳といえます。江戸時代の庶民の姿や世相、風俗が見えてきます。

前句付：前句(課題)に対し付句(答え)を付ける俳諧の修練のひとつ

**寝て居ても団扇の動く親心**  
暑い盛り、幼児を寝かしつけるうちに親もうとうとうとしますが、それでも団扇を動かして続けている親の愛情

**亭主の理屈おれを何だと思ふ**  
形勢不利となった際の亭主の決まり文句

**女房が留守で流しに椀だらけ**  
女房が留守だと食器を洗いもせずにそのままにしておくから、流しが椀だらけになる

**大病に女衞の見える気の毒さ**  
大病の父母の医療費のために娘が身売りすることになると、その仲介業者(女衞)が来る。

\*出典「江戸川柳散策」興津 要著(時事通信社)

### 写真の部

入選

### ～審査を終えて～ (審査員感想)

入賞作品は、偶然にも家庭生活に関するものばかりになりましたが、どの作品も、家事や子育てを、肩肘張らずに自然体で楽しんでいる感じが感じられ好感が持てました。来年は、家庭以外の場面での作品にも期待したいと思います。

### 国内派遣 事業報告

## 『日本女性会議 2009 堺』

報告者 NPO法人えはの会 糸原 幸子さん

昨年の10月30日～31日に堺市で開催された日本女性会議に参加することが出来ました。与謝野晶子の出生地である堺市は、いたるところに日本女性会議を歓迎する垂れ幕が掲げられており、全市を挙げて協力をしていることがうかがわれました。

「山の動く日きたる」の大会テーマのもと、17もの分科会が実施され、4000人の参加者がありました。私は日々の支援活動の示唆となるものを得たいと思い、「女性への暴力」がテーマの分科会に参加しました。

この分科会はパネルディスカッションの形式で行われ、パネラーは近藤恵子さん(NPO法人女のスペース・おん代表理事)、長谷川京子さん(弁護士)、サバイバー(被害者)の方、コーディネーターは川喜田好恵さん(大阪府立男女共同参画・青少年センター カウンセラー)という、DV分野では先端を行く方々でした。

パネラーの発言の中で印象に残ったのは近藤さんの「山を動かすのは当事者だと思ふ。現場から学ぶことは多い。」「当



## ワーク・ライフ・バランス

(仕事と生活の調和)

仕事と生活の調和が実現した社会とは、  
国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に際して多様な生き方が選択・実現できる社会 とされています。  
老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態です。



※当事者性…当事者またはその問題について意識したり行動したりすること